



# 総会が2年ぶりに開催されました

5月29日(土)。宮崎宮参集殿において2年ぶりとなる通常総会が開催されました。出席会員は61名(賛助会員を含む)、委任状提出者が108名、計169名で、総数256名の半数以上となって規約に基づき会議の成立を田島事務局長が宣言しました。

議案は昨年度事業報告から今年度の総額450万円となる予算まで滞りなく承認され、役員は改選年度ではありませんが、浜田泰祐理事が高齢のため退任されましたので、新たに因幡敏幸氏が選出されました。

また役員の職務分担として毛屋副会長より次のとおり報告がありました。

- |       |           |
|-------|-----------|
| 名誉顧問  | 黒田 長高     |
| 会長    | 山崎 拓      |
| 副会長   | 毛屋 嘉明     |
| 事務局   | 田島 満行(局長) |
| 事務局総務 | 西田 経敏     |
| 研修    | 田中 崇和     |
| 広報    | 天本 孝久     |
| 会計    | 郡 基博      |
| 理事    | 徳永 良子     |
|       | 岳 康宏      |
|       | 森 純子      |
|       | 因幡 敏幸(新)  |
|       | 田中 雅美     |
| 監事    | 大島 泰治(新)  |
|       | 松尾 等      |
|       | 栗山 順子     |
|       | 吉田 征則     |
|       | 中村 照久     |
|       | 秦 紀子      |
|       | 三野原 信二    |
|       | 馬頭 徹夫(新)  |
|       | 村山 由美     |

総会終了後に宮崎宮宮司の田村邦明さんの「黒田家と宮崎宮の関係」と題しての講話があ



総会の模様  
熱心に審議する総会出席者

りました。天正15年、秀吉の九州征伐の帰路、箱崎に駐屯して博多の再興に着手しました。その役割を命じられたのが黒田官兵衛、小西行長、石田三成でした。ここ箱崎本営で行われた千利休の茶会にて秀吉と共に官兵衛の叔父である小寺長友(休夢)は連歌を作りました。(「ちよつとうんちく」を参照)黒田氏の筑前入国以前から黒田氏と博多の関係は深かったのです。

宮崎宮の一の鳥居は黒田長政公の寄進によるもので、先の西方沖地震でも15cmずれただけでした。3段の石材(肥前鷹鳥産)を継いでいますが、その継ぎ方には揺れを緩和する工夫が施されています。次の忠之公も今はありませんが、二の鳥居を寄進しています。

第33号  
令和4年7月1日発行  
発行者  
一般社団法人 藤香会  
事務局  
092-724-0007  
発行責任者  
毛屋 嘉明

## 如水公・忠之公ご法要

コロナ感染が広がって福岡県にも蔓延防止等重点措置が発令されている中で、の法要となりました。

忠之公のご法要は、命日の2月12日に理事17名の参列で忠之公、光之公、治高公の霊に誠を捧げました。

如水公のご法要は、3月20日崇福寺本堂と墓前で執り行いました。

山崎会長は挨拶の中で、今年も会員が一同に



如水公法要  
如水公の墓前で焼香の順番を待つ理事



忠之公法要  
東長寺本堂で焼香する理事

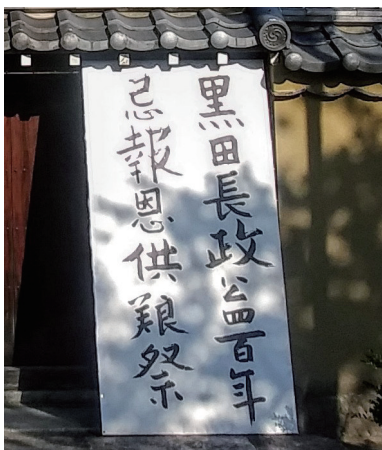
## 長政公四百年忌報恩供養祭が執り行われました

4月3日・4日の両日、長政公四百年忌報恩供養祭が京都・大徳寺塔頭龍光院の主催で崇福寺で執り行われました。

黒田家16代当主の長高様、ご息女の絢子さんはじめ藤香会の理事も数名参列しました。長高様の来福は3年ぶりでした。

初日は龍光院や福岡(博物館や崇福寺)にある長政公関連の書画の展示とその解説を大阪大学人文学研究科の門脇むつみ准教授の解説およびミホ・ミュージアムの熊倉功夫館長の「黒田家の茶の湯と遠州の茶の湯」と題する講演がありました。

2日目は遠州茶道宗家の小堀宗実家元の献茶と龍光院住職小堀月浦師の読経法要の後、四頭(よつがしら)茶会が行なわれました。四人のお坊様が4人の客(主位・賓位・主対位・賓対位)とその相伴客にそれぞれ茶を点てる作法の茶会で、龍光院がそれを受け継いでいるそうです。



崇福寺で行われた  
長政公400年忌の法要の案内

博多どんたくに長高様ご夫妻来福

5月3・4日に3年ぶりに開催された博多どんたくに長高様ご夫妻が来福され、4日には福岡城下の橋御門で三福神の祝いの口上を受けられました。

これに先立って、志岐らん梅さんが指導される子供にわか演技があり、子供たちのわか演に笑いが起りました。



下の橋御門で三福神の祝いの口上を受けられる長高様ご夫妻

会員クリック③



福岡黒田藩傳柳生新影流兵法 柳心會 第十四代宗家 長岡 鎮廣

この度、会員クリックの投稿のご依頼をいただき感謝いたします。私事ですが去る5月21日(土)、宗家継承25周年の記念行事として東京・靖国神社において、黒田家第十六代当主黒田長高様・由佳子様ご夫妻のご臨席を賜り、無事に剣術演武奉納をさせていただきました。また5月27日には宮崎宮で、日本海海戦117周年記念奉祝演武も滞りなく終了いたしました。

藤香会、黒田奨学会のご協力をいただき、ありがとうございました。

今後とも引き続き福岡黒田藩傳柳生新影流兵法 柳心會をご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに、福岡黒田藩と新影流の沿革をお伝えしたく随筆いたします。

新影流の祖上泉伊勢守秀綱は武田信玄が直属の家臣にと望むが「新影流の兵法を諸国に広めたい」と願ひ出、他国には仕えないとの条件で暇をもらい、それまで名乗っていた秀綱を信玄の「信」の一字を賜って上泉武蔵守信綱と名乗った。甥の正田豊五郎景兼(正田新影流)、鈴木意伯ら5人を伴い廻国修行に出る。福岡黒田藩には正田豊五郎が残した巻物数本が残っている。その後当流二代柳生宗藏(石舟斎)の



マイケル・コンタスさん(会員)と演武をされる長岡宗家(左)

ちよっとうんちく

前号では博多商人三傑のひとり神屋宗湛のことを書きましたが、今回はもう一人の島井宗室の話です。

九州征伐で島津義久父子を降して天正15年(1587)6月3日、宮崎八幡宮に陣を駐めた秀吉を翌4日に島井宗室が伺候して謁見します。

10日には近臣と宗湛を従えフスタ船(Husta・南蛮船)で箱崎より博多海浜に上陸し、宗室らに迎えられて博多を巡閲します。ここで町割りのことを、黒田官兵衛、石田三成、小西行長の三士に命じます。

宗室はこれらの貢献によって浜口町に宅地(表13間、入30間)を与えられ、永世諸役免除の沙汰を受けます。

19日には箱崎の本営に召され千利休のお手前の津田宗及、三松(津川玄蕃允の兄)、休夢(如水の叔父・高友)らの相伴で茶を賜りました。つづく連歌の余興では、

高弟であった当流三代 大野松右衛門は宗藏より柳生姓を賜り、柳生松右衛門家信と名乗る。

大野松右衛門は文禄4(1595)年長州藩に赴き、慶長4(1599)年に石高348石で剣術指南役として毛利家に仕え、分限帳にも明記されている。その後当流四代 有地内蔵丞元勝を伴い、筑前黒田藩に赴く。

福岡黒田藩 長野日記 正徳5(1715)年 9月2日の記録では、黒田長清(直方藩主・三代藩主黒田光之の五男)二の丸御館にて剣術御覧、当流五代200石有地四郎右衛門元貞(当流四代元勝の次男)他門弟4名と記されている。

慶長20(1615)年頃から、有地四郎右衛門は黒田藩剣術指南役200石で福岡・城下町小島(こがらす)の馬場南側に居住した。

\*小島の馬場は現在の警固神社西側にあった小島大明神の側にあつて、国道道路になっている薬院泥川(福岡城の堀の一部)沿いである。

博多町 幾千代までやつのるらん 関白 たちならべたる 門のにぎわむ 休夢

ここでまた秀吉の人たらしが出てきます。「汝は武士と商人と執(いず)れを望むや」

「愚老は商家の生まれなれば武士を好まぬにあらねど、商人を忘るる能(あたわ)ず。但し、商売の謀略は殿下の軍略と聊(いさ)ずか相違候わず」

「何なりと望め、叶えて取らすべし」 宗室は海の中道を指さして、「内海を拝領したし。かの海口は愚老の戦場にて候」と言つて大笑いしたとか。

茶席での雑談とはいえず、秀吉に対してこのような応待をしたのは宗室くらいであろう。石城志および博多口碑にこの問答が記されている。

なお商人である千宗易、神屋宗湛、島井宗室、大賀宗伯、津田宗及など僧籍に入つて法名を名乗つた訳は、一介の町人が秀吉など日本のトップに会うことはできない、そこで町人・商人ではなく僧であるとして会つたわけである。

★新規入会員紹介

令和4年

1. 一般会員

- 清田 幸一・黒田 力
- 泊 賢吾・鬼木 正道
- 古城 江寛・稲貝 稔夫
- 岡本 稔・岡本 章子

2. 賛助会員 50企業・団体

お詫びと訂正

2022. 1. 1号の会員クリックの記事中、「担当は、間口何軒興行何軒」とあるのは、「間口何間興行何間」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

編集後記

新型コロナのために本会の行事が中止や延期に追い込まれていましたが、総会を2年ぶりに開くことができました。やはり会員が直接顔を合わせて話をする必要だと改めて思いました。

ホームページアドレス

http://toukoukai-kuroda.com/

藤香会

検索